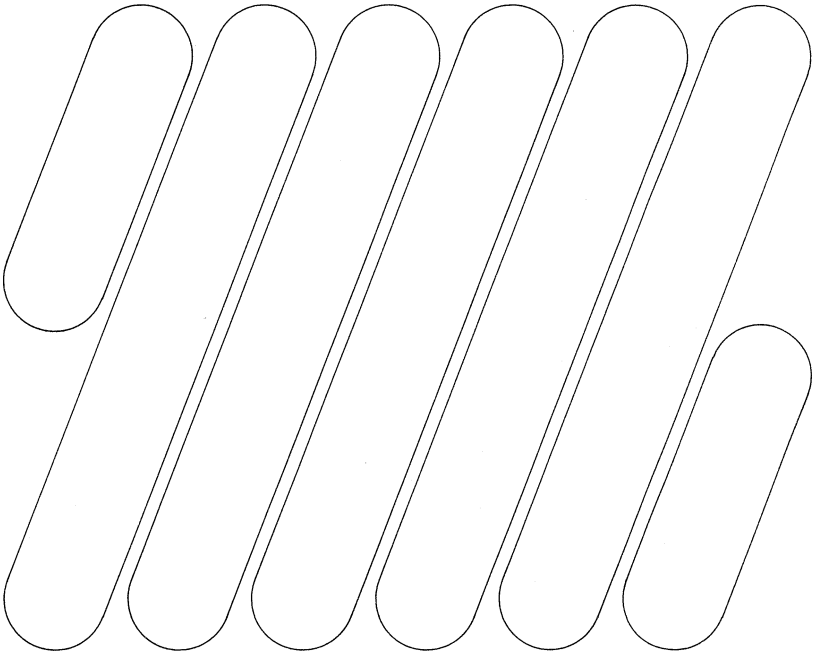
HONDA
HP560
取扱説明書



ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書
をお読みください。

お買いあげありがとうございます。

お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、**お買いあげいただいた販売店**にお気軽にお申しつけください。

●一般公道では使用できません。

取扱説明書について

この取扱説明書は

・作業をするときは、必ず携帯してください。
・本機を貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお渡しください。
・紛失や損傷したときは、お買いあげいただいた販売店またはホンダ汎用営業所にご注文ください。

はじめに

この取扱説明書は、お買いあげいただいた運搬機を安全に正しく操作をする手助けとして編集されたものです。
取扱説明書の中には、本機の正しい取扱い方法、簡単な点検及び手入れについて説明してあります。
本機を運転する前にこの取扱説明書を良くお読みいただき、本機の操作に習熟してください。

安全に関する表示について

本書では運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。これらは安全上、特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠危険
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意
指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

取扱いのポイント
指示に従わないと、本機やその他の物が損傷する可能性があるもの

なお、この取扱説明書は、仕様変更などによりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。

・保証書はよくお読みいただき、裏面の商品受領書サイン欄にご署名の上、大切に保管してください。

目　　次

安全にお使いいただくために これだけはぜひ守りましょう …… 4
安全ラベル …… 8
各部の名称と取扱いをおぼえましょう …… 10
エンジン スイッチ …… 12
燃料コック レバー …… 12
チョーク レバー …… 13
エンジン回転調整レバー …… 13
始動グリップ …… 14
変速レバー …… 14
走行クラッチ レバー …… 15
サイド クラッチ レバー(操向クラッチ レバー) …… 15
ダンプ ロック解除レバー(BJタイプ) …… 16
ダンプ レバー(UJタイプ) …… 16
作業灯 …… 16
作業前に点検しましょう …… 17
燃料の点検 …… 17
エンジン オイルの点検 …… 19
エア クリーナ(空気清浄器)の点検 …… 20
クローラの点検 …… 21
エンジンのかけかた …… 22
エンジンの止めかた …… 26
運転操作のしかた …… 28
運転 …… 28
旋回のしかた …… 30
荷台の使いかた …… 31
回転扉の使いかた …… 33
サイド扉の使いかた …… 34
ダンプ ロック解除レバーの使いかた(BJタイプ) …… 35
ダンプ レバーの使いかた(UJタイプ) …… 36
荷台ストッパの取扱い …… 36
シートの使いかた …… 37
積載のしかた …… 38
傾斜地での使いかた …… 39

定期手入れを行いましょう……40
　定期点検整備項目……40
やさしい点検・整備……41
　エンジン オイルの交換 ……41
　点火プラグの清掃・調整……43
　エア クリーナの清掃・交換 ……44
　クローラの点検・調整……45
　走行クラッチ ベルトの調整 ……47
　油圧ユニット ベルトの調整(UJタイプ) ……49
　ダンプ油圧系統の点検(UJタイプ) ……50
　変速機オイルの点検……50
　ブレーキ ケーブルの調整、ブレーキ シューの点検 ……51
　サイド クラッチ ケーブルの調整……52
　各部の給油について……53
トラック(車)への積み降ろしのしかた……54
長期間使用しないときの手入れ……56
故障のときは……58
主要諸元……59

警告

あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

●作業を始める前に

- この取扱説明書を事前に読み、正しい取扱い方法をご理解のうえで操作してください。
- 間違いなく取扱うために各部の操作に慣れ、すばやく停止させる方法を習得してください。
- 過労や病気、薬物の影響で運転操作に支障があるときは本機を使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすことがあります。
- 頭髪、衣服、手ぬぐいなどが巻き込まれないように、作業に適した服装をしてください。また滑り止めのついた作業に適した靴をはいてください。思わぬ事故を起こすことがあります。
- 日常点検・整備を必ず行い、本機を常に良好な状態にしておいてください。不具合のある状態で操作すると、大けがをすることがあります。点検作業は、通行の妨害にならない平坦で安全な場所で行ってください。
- 防護装置が正しく取付けられていることを確認してください。
  点検・整備のために取外された部品は正しく取付けられ、確実に締付けられていることを確認してください。
- 屋内や換気の悪い場所では、エンジンをかけないでください。
  有害な一酸化炭素によるガス中毒のおそれがあります。
- ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。
  燃料を補給するときは必ずエンジンを停止して、換気のよい場所で補給してください。また燃料を補給するときや燃料の保管場所では、たばこを吸ったり炎や火花を近づけないでください。
- 燃料はこぼさないように注意して所定のレベル(給油限界位置)を越えないように補給し、燃料キャップを確実に締めてください。もし燃料がこぼれた場合はきれいにふき取り、よく乾かしてからエンジンを始動してください。
- 本機の操作はループ ハンドルをしっかり握り、本機の後方に立って,またはシートにすわって操作をしてください。荷台の上に乗ったままの操作は絶対にしないでください。転落などにより、けがをするおそれがあります。

警告

- カバーやラベル類、その他の部品を外して操作しないでください。また本機の改造は絶対にしないでください。適正な機能を発揮しなくなり、思わぬ事故を招くおそれがあります。
- 荷台に人を乗せて乗り物代わりの使用は絶対にしないでください。
- 適切な説明がない状態で他の人に本機の操作をさせないでください。
  特に子供には絶対にさわらせないでください。
- 他の人に本機を貸し出す場合は、取扱い方法をよく説明し取扱説明書よく読むように指導してください。

●荷物の積載

- 過積載は絶対にしないでください。積載の量、方法を必ず守って使用してください。「積載のしかた」(38頁参照)
- 荷台に荷物を積載する場合は荷崩れしないように、しっかりとロープで固定してください。
- 荷台からはみ出すような荷物は積載しないでください。荷物が落下したり、狭い道で荷物が接触したりして、運転操作に支障をきたします。
- 高く荷物を積載しないでください。前方の視界をさまたげるばかりでなく、重心が高くなり転倒するおそれがあります。

●作業中

- 作業中は周囲の安全に十分注意してください。
- 本機と接触してけがをすることがないように、作業範囲内に人やペットを近寄らせないでください。特に子供には注意が必要です。人やペットが近づいて来たときは、エンジンを止めて作業を中断してください。事故を起こすおそれがあります。
- 運転中は、クローラ部に手や足を近づけないでください。またシフト パターン プレートなどに足をかけないでください。

警告

- 後進で使用するときは滑ったり、つまずいたりする場合がありますので足元、荷崩れ、後方視界などに十分注意してください。
- 視界が悪いときは障害物にぶつかる場合がありますので本機を使用しないでください。
- 作業場への出入り、溝や畦の横断、砂地での使用、軟弱地の通過、傾斜地での発進、停止、旋回などは転倒するおそれがありますので速度を下げ、注意して走行してください。
- 傾斜地で駐車しないでください。駐車をするときは平坦な場所で変速レバーを〝中立〟にし、走行クラッチ レバーを〝駐車ブレーキ〟の位置にし、エンジンを止めてください。
- 急傾斜地での旋回および変速は、転落するおそれがありますので避けてください。
- 軟弱な道の走行は路肩が崩れ、転倒、転落するおそれがありますので避けてください。
- 本機の転倒を避けるため、15度を越える上りの傾斜地や15度を越える下りの傾斜地では使用しないでください。「積載のしかた」(38頁参照)
- 作業中に異常を感じたら、平坦な場所でエンジンを停止させてください。誤ってエンジンが始動しないようにエンジン スイッチを〝停止〟にして点火プラグ キャップをプラグから取外し、変速レバーを〝中立〟にして、走行クラッチ レバーを〝駐車ブレーキ〟の位置にしてから点検してください。
- 運転中はエンジンやマフラ(消音器)などは非常に熱くなっています。エンジン停止後もしばらくの間は熱いままになっています。やけどのおそれがありますので、エンジンやマフラなどに触れないように注意してください。
- クローラが接地している地面から20cm以上水に浸かるような深い水田などでは使用しないでください。

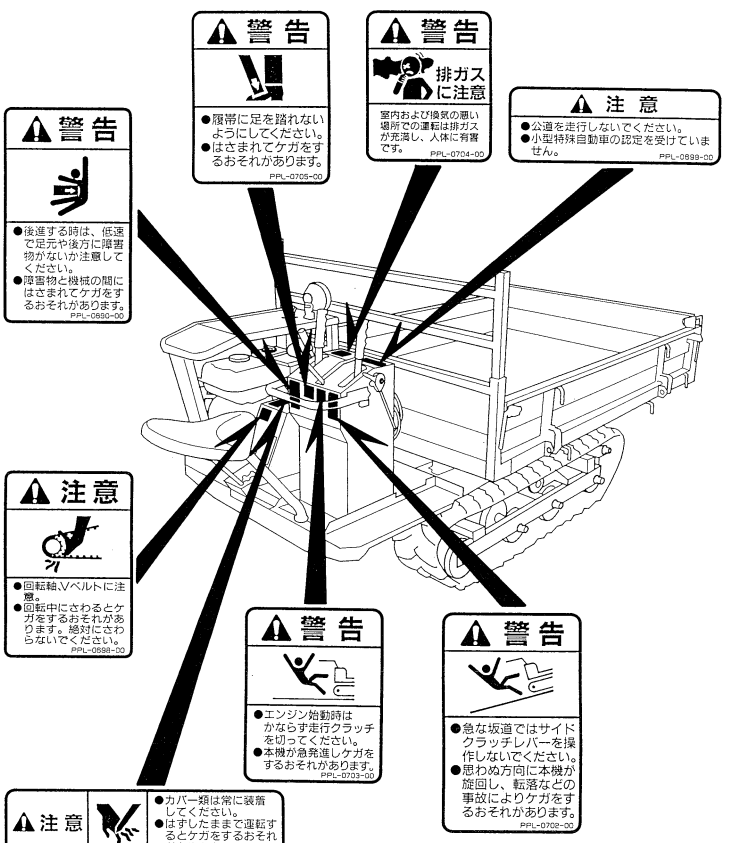
警告

●作業が終わったら

- 次の作業に備えて本機の点検・整備を実施してください。
- やけどの原因とならないように、エンジンを停止させ、エンジンやマフラなどが冷えてから各部の清掃をしてください。
- 本機を室内に格納するときは火災の原因とならないように、エンジンが冷えたのを確認してからボディ カバーなどをかけて格納してください。
- 長期保管するときは、キャブレータ(気化器)や燃料タンク内の燃料を抜取り火気のないところに保管してください。また、燃料を抜くときは、引火性があり火災や爆発のおそれがありますので、燃料用の安全な容器を使用してください。
- トラック(車)への積み降ろしをするときは、必ずアユミ板を使用し、低速で行なってください。転倒や落下した場合にけがをするおそれがあります。

●安全ラベル

本機を安全にご使用いただくため、本機には安全ラベルが貼ってあります。安全ラベルをすべてお読みになってからご使用ください。
ラベルは、はっきりと見えるようにきれいにしておいてください。
本機に貼ってあるラベルが汚れ、破れ、紛失で読めなくなったときは、新しいラベルに貼り替えてください。
また安全ラベルが貼られている部品を交換する場合は、ラベルも新しいものを貼ってください。
安全ラベルはお買いあげいただいた販売店にご注文してください。



⚠ 警 告

① 衣服や頭髪、手ぬぐいなど巻きこまれないような服装で作業すること。
② 機械の輸送時の積降ろしは、平坦で堅固な場所で道板を使い低速で行うこと。
● 道板上での方向変換は転落・転倒の危険がありますので、一旦地上に降りて行うこと。
● ロープを掛て確実に機械を荷台に固定すること。
③ 積荷がくずれないよう確実にロープをかけて固定すること。
④ 障害物乗り越え時は転倒に注意し、徐行運転すること。
⑤ 傾斜地でUターンおよび変速をしないこと。
⑥ 安全の為、一切の改造を禁止します。

PPL-0688-00

⚠ 警告



●走行中は荷台に人を乗せないでください。
●転落などによりケガをするおそれがあります。 PPL-0691-00

⚠ 危険

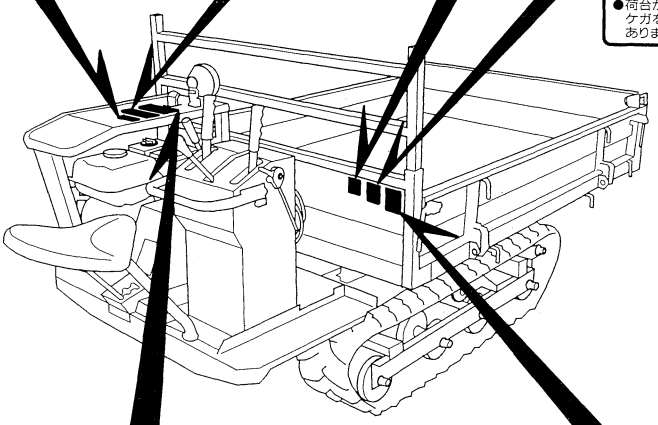


●ダンプした荷台の下には絶対に入らないこと。
●荷台が急に下がりケガをするおそれがあります。 PPL-0692-00

⚠ 注意



点検時エンジン停止
●点検整備をするときは、かならずエンジンを停止してください。
●ケガをするおそれがあります。
PPL-0706-00



⚠ 注 意



取扱説明書をよく読んで安全に作業してください。

① 作業開始前に取扱説明書に基ずき点検を行ってください。
② 表示積載量以上の積載は危険ですので禁止します。
③ 傾斜地での使用は安定性を考えて積荷を少なく高さを低くすること。
④ 不正地・軟弱地・急傾斜地では変速位置を低速にして徐行運転してください。
⑤ 降坂時はエンジンブレーキを利用し、いつでもブレーキがかけられる姿勢で運転すること。
⑥ 他人に貸出す場合は運転及び操作方法をよく説明してから貸出すこと。
⑦ 機械を駐車する場合は平坦で堅固な場所に止め、必ず駐車ブレーキをかけること。
⑧ 格納時はエンジン、排気管が完全に冷てから燃えやすいものが近くにない場所に格納すること。
⑨ 定期点検を行ってください。

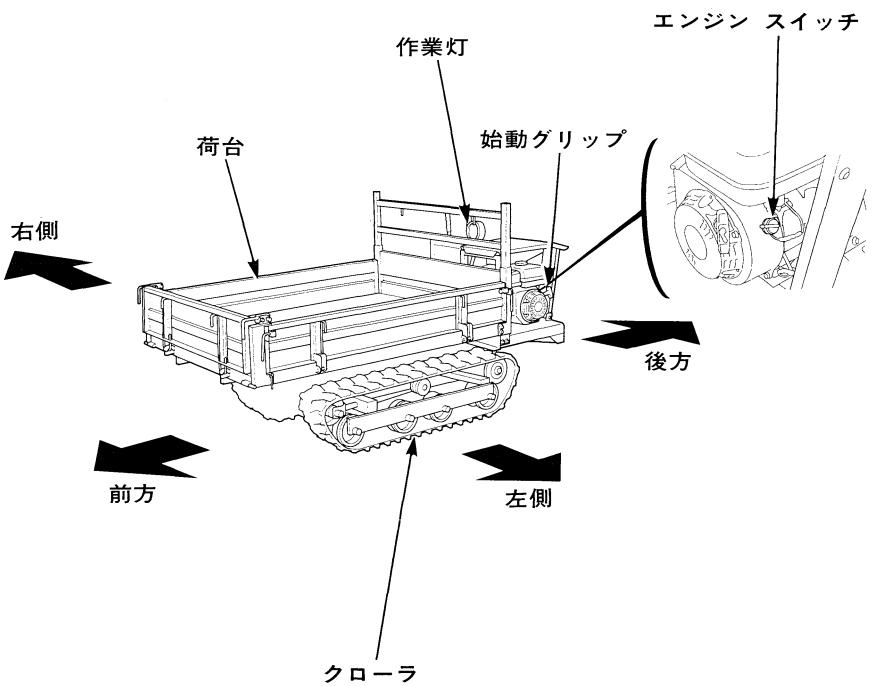
PPL-0689-00

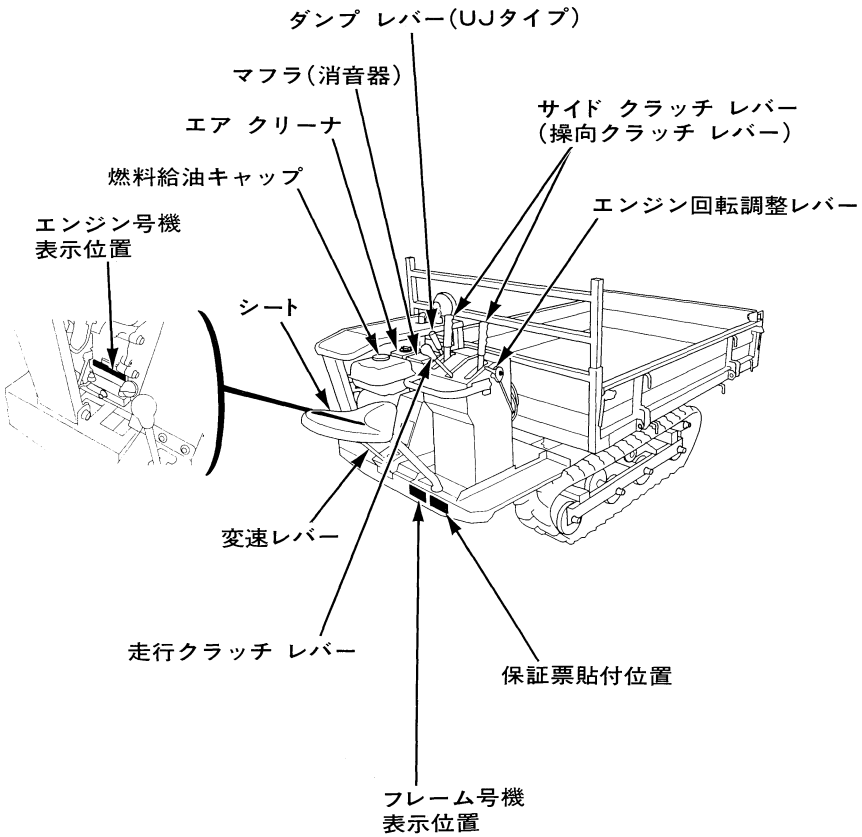
⚠ 危険



●荷台を上げて点検整備をするときは、荷台落下防止装置をセットしてください。
●荷台が急に下がりケガをするおそれがあります。 PPL-0708-00

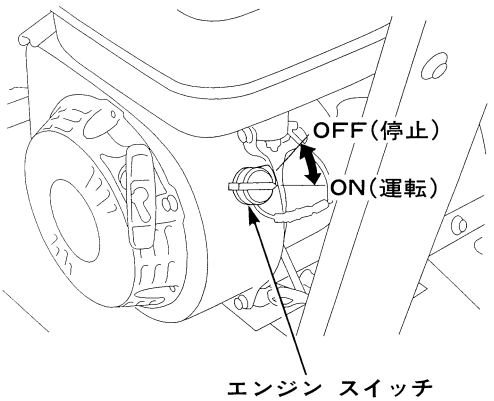
各部の名称と取扱いをおぼえましょう




ダンプ レバー(UJタイプ)
マフラ(消音器)
エア クリーナ
サイド クラッチ レバー
(操向クラッチ レバー)
燃料給油キャップ
エンジン回転調整レバー
エンジン号機
表示位置
シート
変速レバー
走行クラッチ レバー
保証票貼付位置
フレーム号機
表示位置

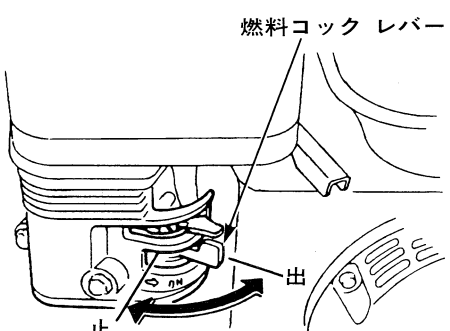
エンジン スイッチ

エンジンを運転、停止をするときに操作します。



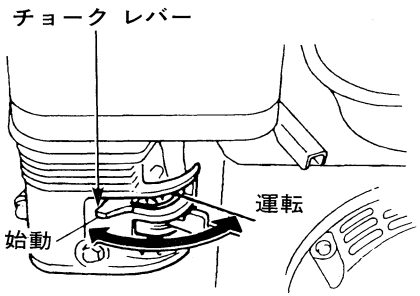
燃料コック レバー

燃料タンクからキャブレータ(気化器)までの燃料通路を開閉するときに操作します。
操作は確実に〝止〟〝出〟の位置に合わせます。



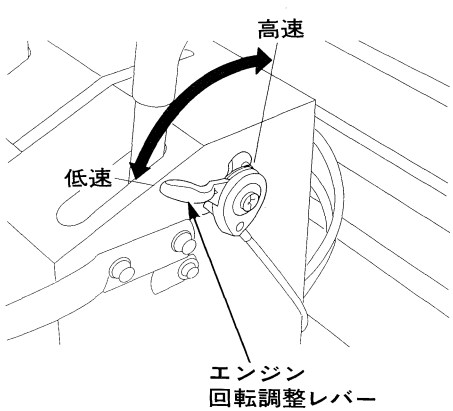
チョーク レバー

エンジンが冷えているときに操作します。



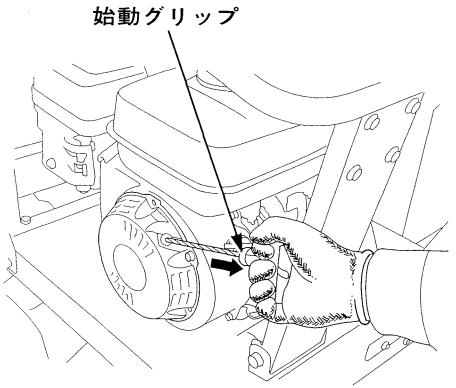
エンジン回転調整レバー

エンジン回転を調整するときに操作します。エンジン始動時、運転中、停止時に操作します。通常は"**高速**"の位置でご使用ください。



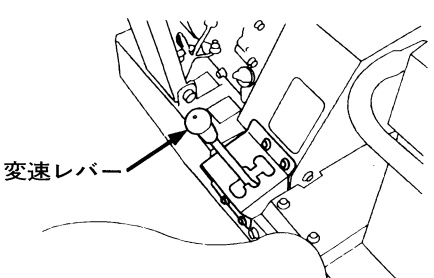
始動グリップ

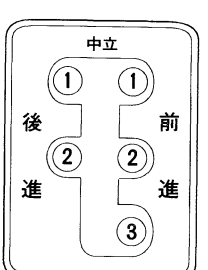
エンジンを始動するときに操作します。



変速レバー

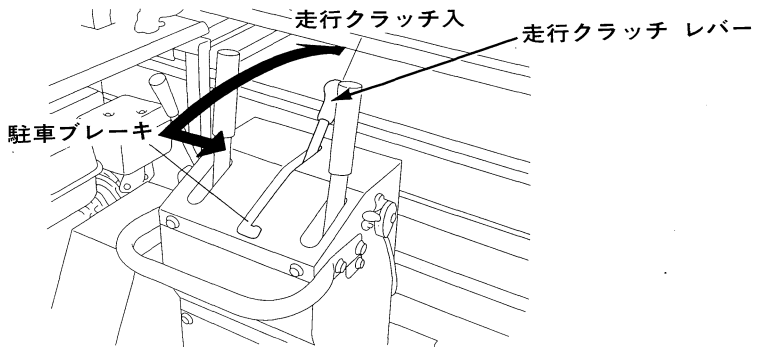
本機を前進、後進するときに操作します。
前進３段、後進２段さらに〝**中立**〟があります。





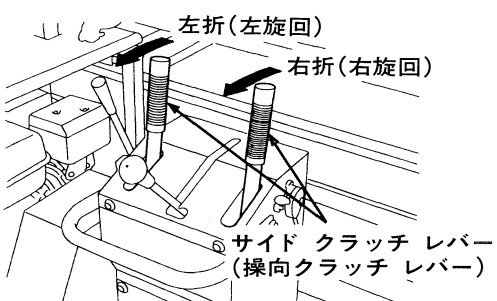
走行クラッチ レバー

走行クラッチ レバーを"**走行クラッチ入**"の位置にすると走行し、"**駐車ブレーキ**"の位置にするとクラッチが切れて、ブレーキが作動して止まります。



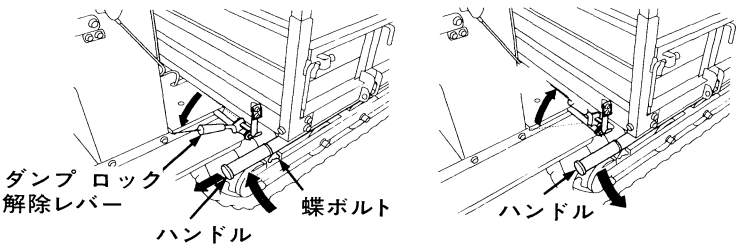
サイド クラッチ レバー(操向クラッチ レバー)

方向を変えるときに使います。旋回しようとする方向のサイド クラッチ レバーを手前に引くと引いた方向に曲がります。



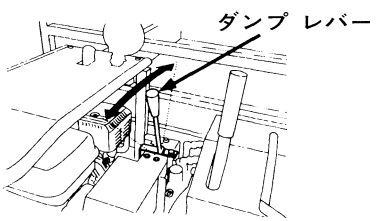
ダンプ ロック解除レバー(BJタイプ)

荷台のロックを解除するときに操作します。
解除するとき……レバーを手前に引き、ハンドルを持ち上げます。
ロックするとき……ハンドルのみ持ってロックするまで下げます。



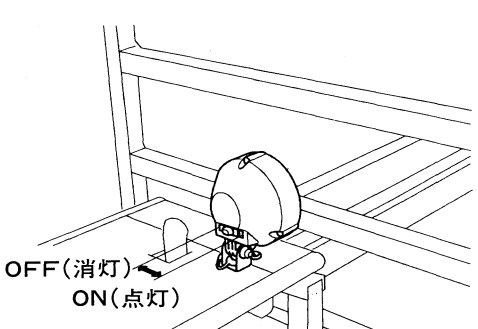
ダンプ レバー(UJタイプ)

荷台を上、下するときに操作します。ダンプ レバーを前方に押すと荷台はあがり、手前に引くと元に戻ります。



作業灯の使いかた

作業灯の後部にあるスイッチで点灯、消灯ができます。エンジンが運転中にスイッチを"ON"にすると点灯し、"OFF"にすると消灯します。



⚠警告

点検は平坦な場所で本機を水平にしエンジンを止めて行ってください。
不安定な場所やエンジンを始動したまま点検を行うと事故を起こすおそれがあります。

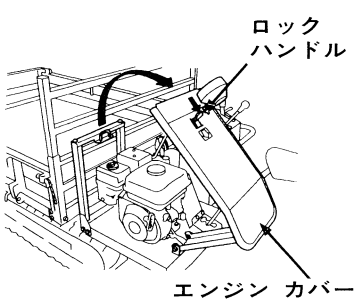
燃料の点検

⚠警告

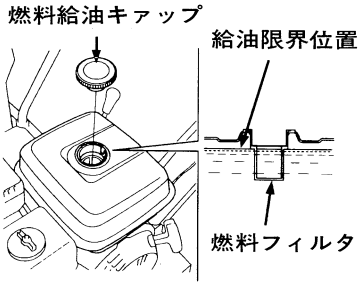
ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を起こすおそれがあります。
ガソリンの補給は
- エンジンを停止してください。
- 換気の良い場所で行ってください。
- 火気を近づけないでください。
- ガソリンはこぼさないように補給してください。万一こぼれた場合は布きれなどで完全にふき取り、火災と環境に注意して処分してください。
- 燃料は注入口の口元まで入れず所定のレベル(給油限界位置)を越えないように補給してください。入れすぎるとガソリンが燃料給油キャップからにじみ出ることがあります。

点検

ロックハンドルを引き、エンジン カバーを開けます。



注入口のレベル(給油限界位置)以下まで燃料があるか点検してください。少ない場合は補給してください。



補給

燃料給油キャップを外し、注入口のレベル(給油限界位置)を越えないように補給してください。

使用燃料：自動車用ガソリン

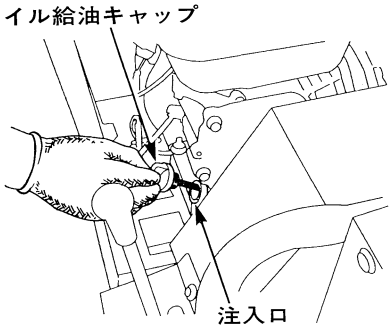
タンク容量：3.6ℓ

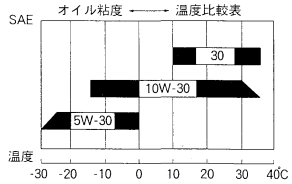
補給後、キャップを確実に締付けてください。

エンジン オイルの点検

点検

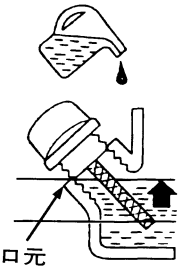
本機を水平な場所に止めオイル給油キャップを外し、注入口の口元までオイルがあるか点検してください。少ないときには、オイルを口元まで補給してください。
オイルの汚れや変色が著しい場合は交換してください。(交換時期、方法は41頁参照)





補給

オイル給油キャップを外し、新しいオイルを口元まで補給します。補給後、オイル給油キャップを確実に締付けてください。



●推奨オイル：4サイクル ガソリン エンジン オイル
ホンダ純正：①ウルトラ ネオ汎用機用(SAE30)
②ウルトラ-U(2輪車用)(SAE10W-30)
またはAPI分類SE、SFまたはSG級相当のSAE10W-30オイルをご使用ください。

取扱いのポイント

- **低温時(気温10℃以下)ではホンダ純正ウルトラ-U(2輪車用)SAE10W-30のオイルをご使用ください。**
- **寒冷時(気温−15℃以下)ではAPI分類SE、SFまたはSG級相当のSAE5W-30オイルをご使用ください。**
- **オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。**

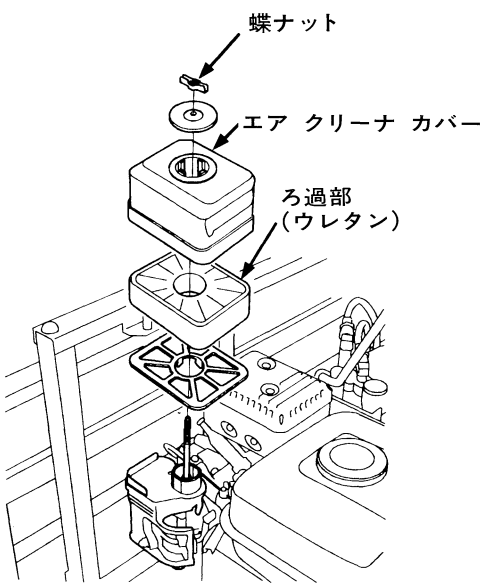
エア クリーナ(空気清浄器)の点検

点検

1.蝶ナットを外し、エア クリーナ カバーを外します。
2.ろ過部(ウレタン)の汚れを点検します。
3.汚れがひどい場合は、ろ過部の清掃を行ってください。(44頁参照)

取扱いのポイント

- **エア クリーナ カバーの締付けは確実に行ってください。締付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。**
- **エア クリーナ カバーやろ過部(ウレタン)を装備しなかったり、取付け方が悪いと、エンジンに悪影響を与える原因になります。**



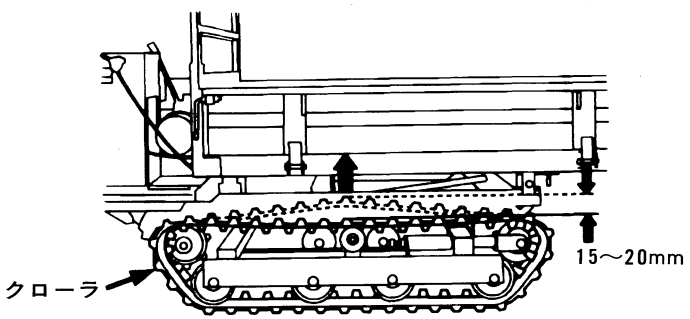
クローラの点検

クローラに損傷はないか、ゆるんでいないか点検してください。
クローラの張りが正常でないと脱輪したり、寿命を著しく縮める原因になります。

点検のしかた

クローラの中央部を強く(約9kg)引きあげたときにたるみが下記寸法になっているか点検してください。(調整方法は45頁参照)

たるみ量：15～20mm



⚠警告

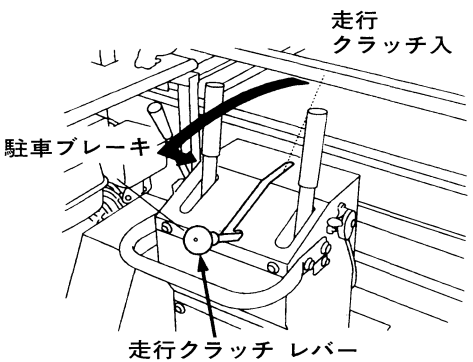
走行中にクローラが外れたり切れたりした場合、荷崩れや転倒などの事故につながります。
走行不能になると同時にブレーキが効かなくなり重大事故になる場合があります。

エ　ン　ジ　ン　の　か　け　か　た

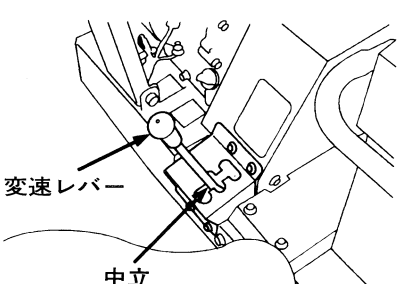
⚠警告

- **屋内や換気の悪い場所では、エンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすおそれがあります。**
- **エンジンを始動するときは、必ず周囲の人や物の安全を確認してください。走行クラッチ レバーが〝駐車ブレーキ〟の位置で、変速レバーが〝中立〟の位置になっていることを確認してください。本機が不意に動きだし、けがをすることがあります。**

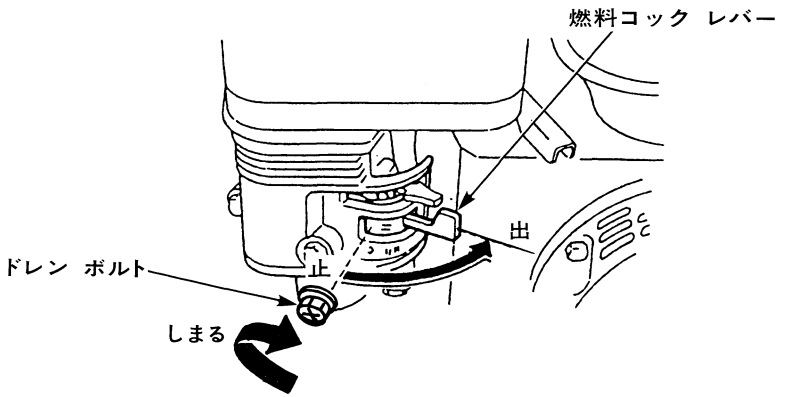
1.走行クラッチ レバーを**〝駐車ブレーキ〟**の位置にします。



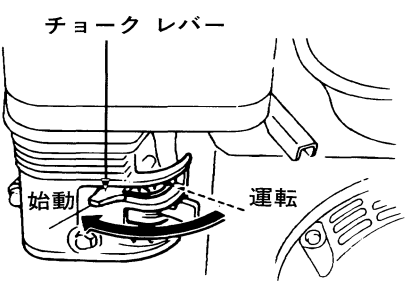
2.変速レバーを**〝中立〟**の位置にします。



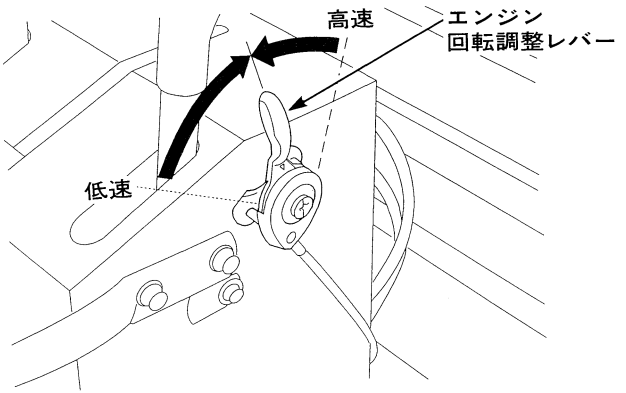
3.ドレン ボルトが確実に締まっていることを確認し、燃料コック レバーを〝**出**〟の位置に合わせます。



4.チョーク レバーを〝**始動**〟の位置に合わせます。
エンジンがあたたまっているとき、または気温が高いときには〝**運転**〟の位置に合わせます。



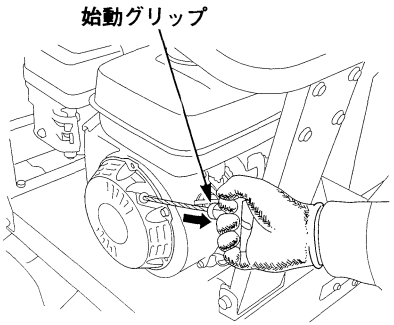
5.エンジン回転調整レバーを**低速**と**高速**の中間の位置にします。



6.エンジン スイッチを〝**ON**〞(**運転**)の位置に合わせてください。



7.始動グリップを引き重くなる所をさがし、勢いよく引いてください。

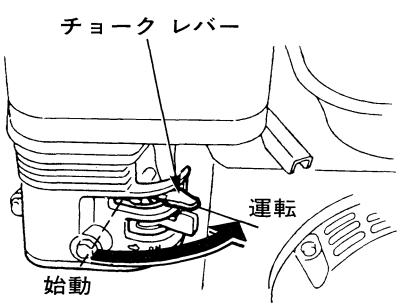


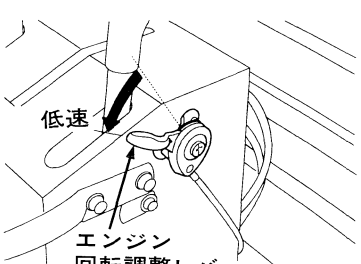
取扱いのポイント

始動グリップを引き上げた位置から手を離さないでください。グリップやまわりの部品を破損することがあります。また運転中は始動グリップを引かないでください。エンジンに悪影響を与えます。

8.2～3分暖機運転を行います。
チョーク レバーを使用して始動したときは、エンジン回転が安定するのを確認しながらチョーク レバーを**"運転"**の位置に戻します。
エンジンの回転が安定したら、エンジン回転調整レバーを**"低速"**の位置にしてください。

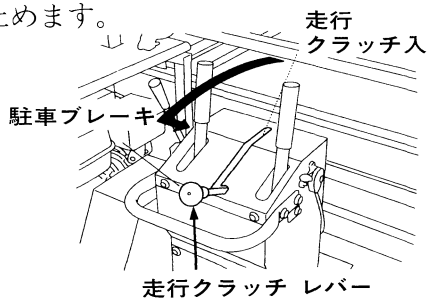
●暖機運転を行うことにより、エンジンの各部にオイルをいきわたらせ寿命をのばします。

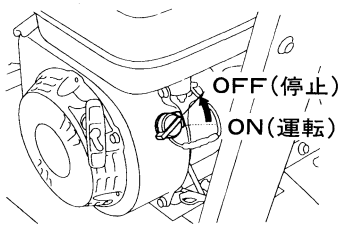




●緊急停止の場合

1.走行クラッチ レバーを〝**駐車ブレーキ**〟の位置にし、本機を停止させます。エンジン スイッチを〝**OFF**〟(**停止**)の位置にしてエンジンを止めます。

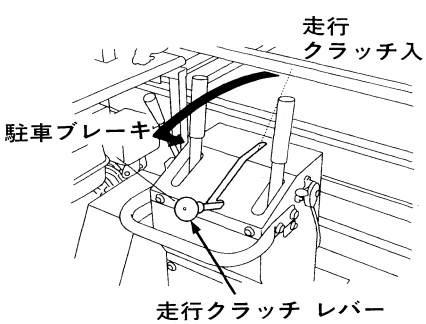


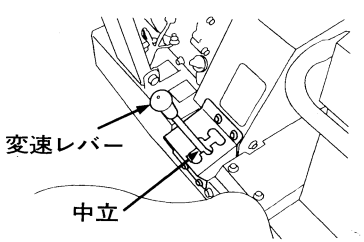


● 緊急停止した場合は、再び始動する前に変速レバーを〝**中立**〟の位置にしてください。

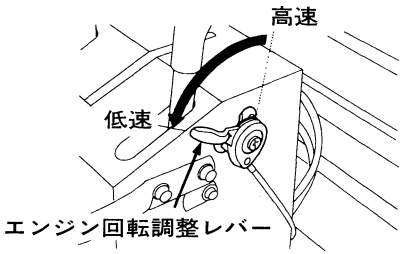
●通常停止の場合

1.走行クラッチ レバーを〝**駐車ブレーキ**〟の位置にし、本機を停止させます。変速レバーを〝**中立**〟の位置にします。

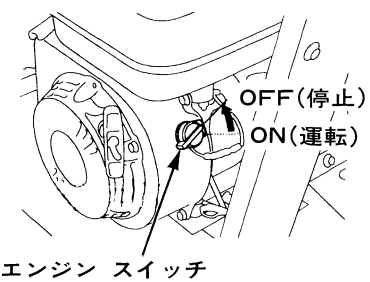




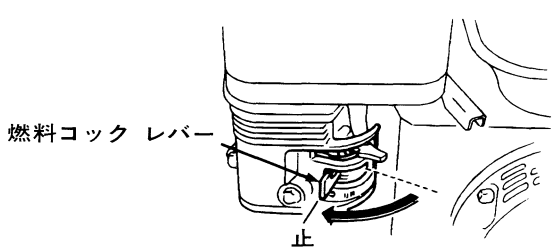
2.エンジン回転調整レバーを〝**低速**〟の位置に合わせてください。



3.エンジン スイッチを〝**OFF(停止)**〟の位置に合わせてください。



4.燃料コック レバーを〝**止**〟の位置に合わせてください。



運　転　操　作　の　し　か　た

運搬作業をする前に必ず「安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう」の項目をよくお読みになり十分に理解してから行なってください。

⚠警告

- **急な坂道を下るときはエンジン回転調整レバーを〝低速〟の位置にし、変速レバーを１速にして走行してください。**
- **傾斜地でエンジンが停止したときは、すみやかに走行クラッチ レバーを〝駐車ブレーキ〟の位置に戻しブレーキをかけてください。走行クラッチ レバーが〝走行〟の位置の状態では、ブレーキがかからず本機が動き出す場合があります。**
- **後進するときは後方の安全を十分確認してください。**

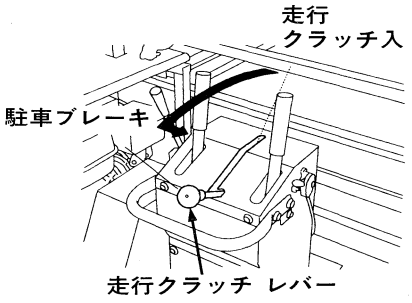
⚠注意

急発進による事故などを防ぐため、周囲の安全に十分注意してレバー操作を行ってください。

運転

エンジンのかけかたに従ってエンジンを始動してください。(22頁参照)

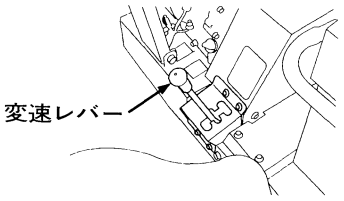
1.走行クラッチ レバーが**〝駐車ブレーキ〟**の位置にあることを確認してください。

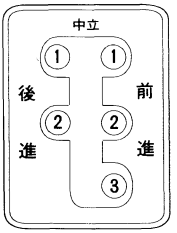


2.作業内容に合わせて変速レバーの位置を選び、車速を設定してください。

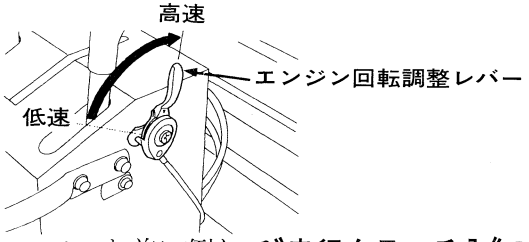
取扱いのポイント

走行中に変速操作は行わないでください。
走行クラッチ レバーを〝駐車ブレーキ〟の位置にして本機が停止してから変速操作をしてください。走行中に変速操作を行うと故障の原因になります。



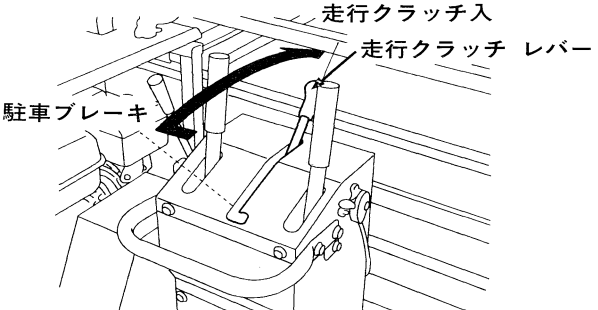


3.エンジン回転調整レバーを**〝高速〟**の位置に合わせてください。



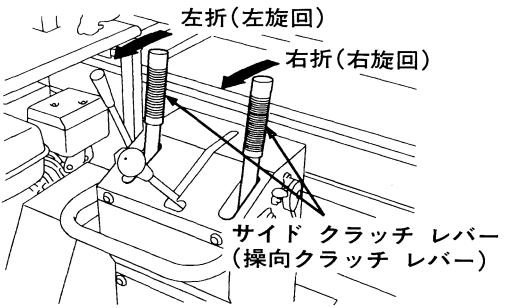
4.走行クラッチ レバーを前に倒して**〝走行クラッチ入〟**の位置にしてください。走行を始めます。

- 走行クラッチ レバーをゆっくり操作すると、エンジンが停止することがあります。すみやかに操作してください。



旋回のしかた

旋回しようとする方向のサイド クラッチ レバー(操向クラッチ レバー)を手前に引くと旋回します。
サイド クラッチ レバーを操作する場合は、レバーを確実に手前に引いてください。



⚠警告

旋回するときは荷物が安定していることを確認してください。
急傾斜地では旋回しないでください。
転倒や転落の原因になります。

荷台の使いかた

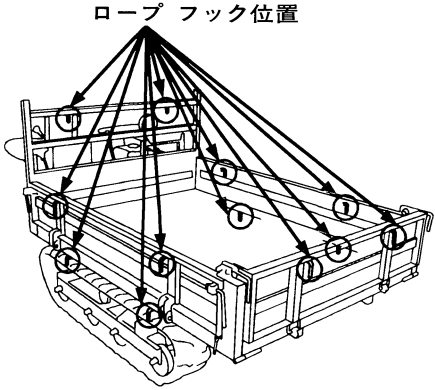
35頁の重量制限を守ってください。

⚠警告

荷物を積載するときは、必ず定められた荷台寸法内で積載重量、正しい積載のしかた、傾斜角度を守ってください。エンジンやフレームに悪影響をあたえるばかりでなく荷くずれなどを起こす原因になります。

荷物を積載するときは、必ず荷くずれしないようにしっかりとロープでロープ フックを使い固定してください。
ホッパとして使用する場合は砂, 砂利, 土, たい肥などを積載するときに使用してください。

ロープ フック位置



⚠警告

転倒や転落事故防止のために次の指示に従ってください。

- 手動式ダンプ(BJタイプ)は本機を動かす前に、荷台がロックされていることを確認してください。ロックが不完全だと降坂時に荷台が持ち上がります。
- 重心が高くならないように、重い荷物が下になるような積み方をしてください。
- 荷台を広げて使用する場合は軽量物を運搬するときだけにしてください。
- 積み荷が荷台からはみ出たり、視界を妨げるような積み方はしないでください。
- 柔らかい地面で、でこぼこのある地面を通過するときは速度を下げてください。
- 15度を越える傾斜地では本機を使用しないでください。

取扱いのポイント

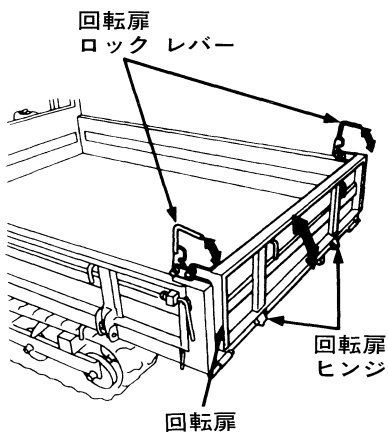
ロープ フック以外にはロープをかけないでください。

回転扉の使い方

⚠警告

- **急傾斜地では回転扉を開いた,または外した状態で使用しないでください。**
- **回転扉を開いて使用する場合は軽量物の運搬だけにしてください。**

1.回転扉ロック レバーを上にあげることにより上部のロックが外れ、回転扉を下側に開くことができます。



2.回転扉は取外すことができます。荷台をダンプ(持ち上がる)状態にすると回転扉ヒンジが外れます。回転扉ロック レバーを上にあげて回転扉を取外します。
取付けは、荷台がさがった状態で上部を取付け、荷台を一度ダンプ状態にします。次に荷台をさげると回転扉ヒンジがセットされ扉は取付けられます。

取扱いのポイント

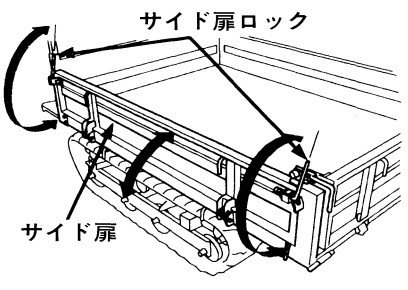
回転扉をつけた状態で荷台を上げる場合には、回転扉の開口部以下の積載物で使用してください。開口部以上の積載物で使用しますと、回転扉が破損することがあります。

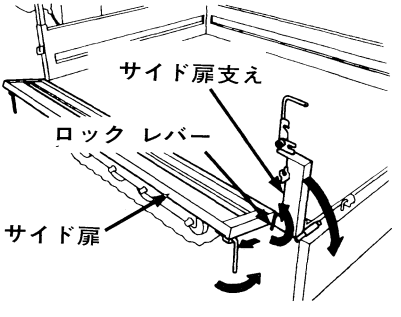
サイド扉の使いかた

⚠警告

- **急傾斜地では荷台を広げて使用しないでください。**
- **荷台を広げて使用する場合は軽量物を運搬するときだけにしてください。十分なロープ掛けを行ない荷くずれを起こさないように注意してください。**

1.回転扉を開くか、または取外します。(33頁参照)
2.前後のサイド扉ロックを外します。
3.サイド扉を水平位置まで開き、サイド扉を側方に引き出して下にさげます。
4.サイド扉支えのロック レバーを上にあげてロックを外し、サイド扉支えを下にさげます。
5.サイド扉を閉めるときは開くときの逆の手順で行ってください。





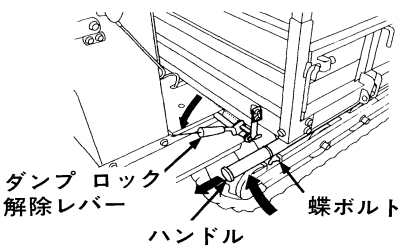
ダンプ ロック解除レバーの使いかた(BJタイプ)

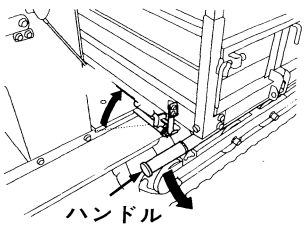
ハンドルの根元にある蝶ボルトをゆるめます。ハンドルを引き出し蝶ボルトを締めてください。

解除するとき……レバーを手前に引き、ハンドルを持ち上げます。

ロックするとき……ハンドルのみ持ってロックするまで下げます。

このとき荷台の回転扉は、自動的に閉まります。





操作が終了したらハンドルを元に戻し、蝶ボルトを締めてください。

⚠警告

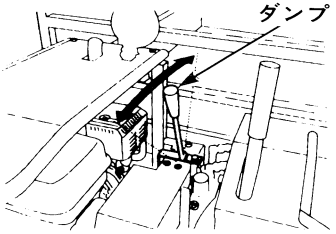
- **荷台を持ち上げた状態で放置しないでください。**
- **本機を動かす前に、荷台がロックされていることを確認してください。ロックが不完全だと降坂時に荷台が持ち上がります。荷物を落としたり、けがをするおそれがあります。**

ダンプ レバーの使いかた(UJタイプ)

⚠警告

- **エンジンが停止している場合でもダンプ レバーを手前に引くと荷台は下がります。荷台を上げた状態で作業するときは、荷台ストッパーを使用してください。**
- **荷台を持ち上げた状態で放置しないでください。**

エンジンが運転中にダンプ レバーを前方に押すと荷台はあがります。ダンプ レバーを手前に引くと荷台は元の位置に戻ります。

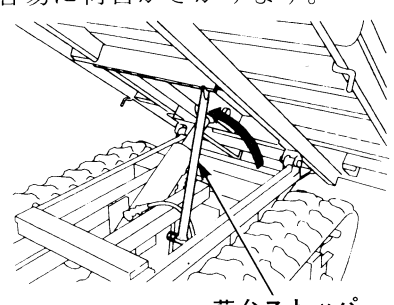


荷台ストッパの取扱い

⚠警告

荷台ストッパは確実に取付けてください。
荷台がさがり、けがをするおそれがあります。

荷台を持ち上げた状態で作業を行うときは、荷台ストッパを図のように用いて作業を行ってください。UJタイプは油圧式のためダンプ レバーの操作により、容易に荷台がさがります。

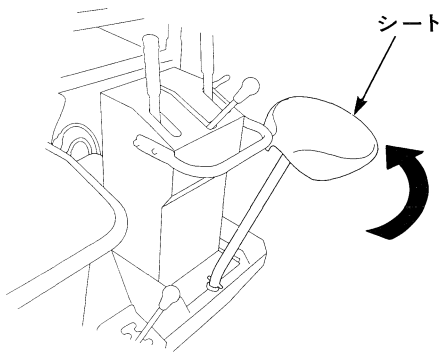


取扱いのポイント

荷台をさげるときは、荷台ストッパを外してください。

シートの使いかた

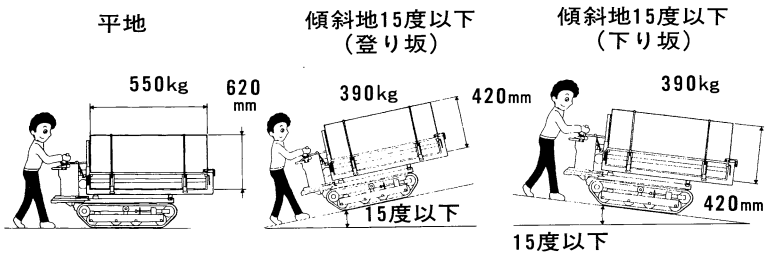
シート使用時は正しく座り本機をすばやく停止できるように運転操作を行ってください。
シートを使用しないで歩行運転するときは、図のようにシートを90°回転させて行ってください。



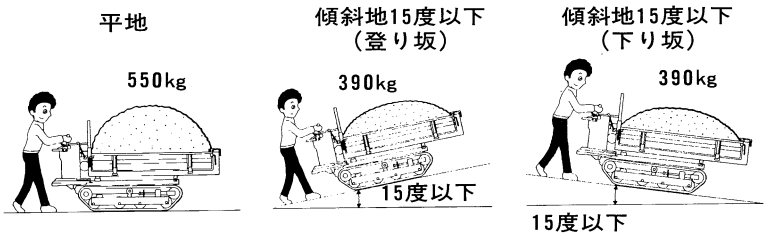
積載のしかた

この運搬機は15度以下の傾斜地で使用してください。

キャリアとして使用する場合

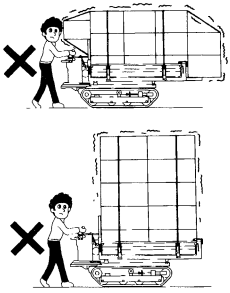


ホッパとして使用する場合



⚠注意

- 荷台からはみ出すような荷物の積載はしないでください。荷物が落下したり、狭い道で荷物が接触したりして運転操作に支障をきたします。
- 荷物は高く積載しないでください。前方の視界をさまたげるばかりでなく、重心が高くなります。
  転倒などしやすくなりけがをするおそれがあります。



傾斜地での使いかた

走行について

1.必ず１速で走行してください。
2.足場が悪い場合は、車速を下げて足元に十分注意して作業を行ってください。
3.降坂時はエンジン回転調整レバーを**〝低速〟**位置にして、エンジン ブレーキを使用してください。
4.傾斜地での発進、停止は転倒に十分注意してください。
5.急傾斜地での旋回および変速は行なわないでください。

積載について

1.傾斜地では荷物の安定性が悪くなりますので、ロープなどでしっかり固定してください。
2.路面の状態により本機の安定性が悪くなりますので、荷物の量は控え目にしてください。
3.傾斜地では前方の視界が悪くなりますので、荷物の高さは控え目にしてください。

定　期　手　入　れ　を　行　い　ま　し　ょ　う

定期点検整備項目

お買いあげいただきました本機をいつまでも調子よく、長持ちさせるために定期点検を受けましょう。

点検項目＼点検時間		作業前点検	初回 20時間 運転時	50時間 運転毎	100時間 運転毎	300時間 運転毎又は 1年に1回
エンジン オイル	点検	○				
	交換		○		○〈又は6ヶ月毎〉	
エア クリーナ	点検	○				
	清掃			○(注1)		
本機まわりの点検		○				
レバーの作動	点検	○				
各部の締付け	点検	○				
配線、ケーブル類の点検		○				
エンジンの作動	点検	○				
クローラ	点検	○				
	調整		○			○
走行クラッチ ベルト	調整		○		○〈注2〉	
サイド クラッチ ケーブル	調整		○		○〈注2〉	
ブレーキ ケーブル	調整		○		○〈注2〉	
点火プラグ	清掃 調整				○	
エンジン回転調整ケーブル	調整					○〈注3〉
ブレーキ シュー	点検		○		○	
	調整				○〈注2〉〈注3〉	
油圧ユニット ベルト	調整		○		○〈注2〉	
変速機オイル	点検		○			○
各部グリス注入					○〈注2〉	
吸入・排気弁すき間	点検 調整					○〈注3〉
燃料タンク、フィルタ	清掃					○〈注3〉
燃料チューブ	点検	2年毎〈注3〉				
油圧ユニット オイル	交換	500時間運転毎または1年に1回〈注3〉				

(注1)ほこりの多いところで作業した場合は、10時間毎または1日1回清掃してください。

(注2)これらの項目は、100時間毎または1年に1回行なってください。

(注3)これらの項目は適切な工具と整備技術を必要としますので、お買いあげ販売店にお申しつけください。

⚠警告

点検・整備は平坦な場所でエンジンを停止させ、エンジンが始動しないようにエンジン スイッチを〝停止〟位置にして点火プラグ キャップを点火プラグから取外してから行ってください。
誤ってエンジンが始動すると本機が動き出す場合があります。

エンジン オイルの交換

エンジン オイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

交換時期　初回：20時間運転時
以後：100時間運転毎、または6ヶ月毎

●推奨オイル：4サイクル ガソリン エンジン オイル
ホンダ純正：①ウルトラ ネオ汎用機用(SAE30)
②ウルトラ-U(2輪車用)(SAE10W-30)
またはAPI分類SE、SFまたはSG級相当の
(SAE10W-30)エンジン オイル

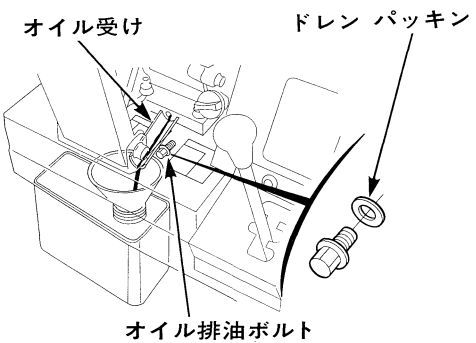
規定量　0.6ℓ

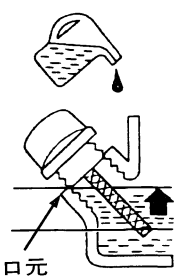
取扱いのポイント

- **低温時(気温10℃以下)ではホンダ純正ウルトラU(2輪車用)SAE10W-30のオイルをご使用ください。**
- **寒冷時(気温－15℃以下)では、API分類SE、SFまたはSG級相当のSAE5W-30オイルをご使用ください。**

交換のしかた

エンジン オイル給油キャップを外し、オイル排油ボルトをゆるめてください。
厚紙で図のようなオイル受けを用意し、セットしてください。
排油ボルトを外しオイルを抜いてください。
排油ボルトのドレン パッキンを新しい部品と交換してください。再使用するとオイル漏れの原因になります。
オイルがぬけたら排油ボルトを確実に締付けてください。
新しいエンジン オイルを口元まで注入してください。
注入後キャップを確実に締付けてください。





⚠注意

**エンジン停止直後はオイルの油温、エンジン、マフラなどが非常に熱くなっていますのでエンジンが冷えてから行ってください。
やけどをするおそれがあります。**

取扱いのポイント

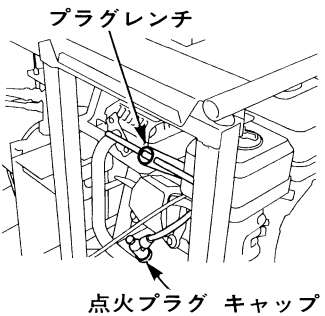
- **オイルは使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検・交換を行いましょう。**
- **必ず本機を水平にし、オイルを給油してください。**
- **交換後のエンジン オイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。処理方法は法令で義務付けられています。法令に従い適正に処理してください。
不明な場合は購入先にご相談のうえ処理してください。**

点火プラグの清掃・調整

⚠注意

エンジン停止直後は点火プラグ、エンジン、マフラなどが熱くなっていますのでエンジンが冷えてから行ってください。
やけどをするおそれがあります。

電極が汚れたり、電極のすき間が不適当ですと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。



清掃時期

100時間運転毎

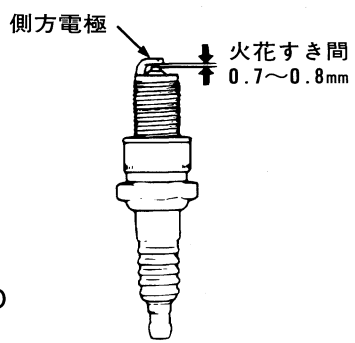
清掃のしかた

1.点火プラグ キャップを取外します。
2.プラグ レンチで点火プラグを取外します。
3.点火プラグの清掃はプラグ クリーナを使用するのが最も良い方法です。お買いあげ販売店をご利用ください。
- プラグ クリーナが無いときはワイヤブラシで汚れを落としてください。

調整

4.側方電極をつめ、火花すき間を下記寸法に調整します。

火花すき間：0.7～0.8mm



標準プラグ

BP6ES、BPR6ES：NGK
W20EP-U、W20EPR-U：NIPPONDENSO

取扱いのポイント

- **故障の原因となるので標準以外の点火プラグを使用しないでください。**
- **点火プラグの取付けは、ネジ山を壊さないように、まず指で軽くねじ込み、次にプラグ レンチで確実に締付けてください。**
- **点検調整後は点火プラグ キャップを確実に取付けてください。確実に取付けないとエンジン不調の原因になります。**

エア クリーナの清掃・交換

エア クリーナが目詰まりすると出力不足や燃料消費が多くなります。定期的に点検しましょう。

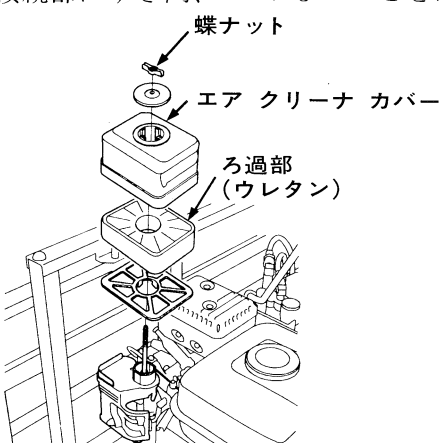
⚠警告

エア クリーナの清掃は、火気のある場所で行わないでください。洗い油は燃えやすく、火災を引き起こすおそれがあります。

清掃時期　50時間運転毎
　　ホコリの多い場所で使用した場合は１日１回10時間毎。

清掃のしかた

1. 蝶ナットを外し、エア クリーナ カバーを外します。
2. ウレタンのろ過部は洗い油または中性洗剤を水で薄めて洗い、よく絞って乾かします。オイルに浸した後、かたく絞ってください。
3. 清掃後、各部品を組付け、蝶ナットを確実に締付けてください。エア クリーナ カバーの接続部にすき間、ズレがないことを確認してください。



取扱いのポイント

- **エア クリーナ カバーの締付けは確実に行ってください。締付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。**
- **エア クリーナ カバーやろ過部の組付けを忘れたり、取付け方が悪いとホコリなどが入り、エンジンに悪影響をあたえます。**

クローラの点検・調整

⚠警告

クローラの点検・調整は平坦な場所でエンジンを停止させ、エンジンが始動しないようにエンジン スイッチを〝停止〟位置にして点火プラグ キャップを点火プラグから取外してから行ってください。誤ってエンジンが始動すると本機が動き出しクローラに巻き込まれけがをするおそれがあります。

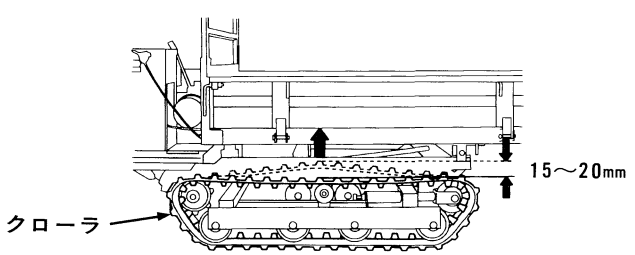
クローラに損傷はないか、ゆるんでいないか点検してください。
クローラの張りが正常でないと脱輪したり、寿命を著しく縮める原因になります。

点検時期

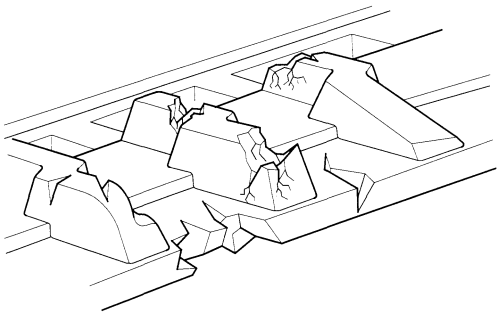
初回：20時間運転時
以後：300時間運転毎、または１年に１回

点検のしかた

1. クローラの中央部を強く（約９kg）引きあげたときたるみが下記寸法になっているか点検してください。
   たるみ量：15～20mm



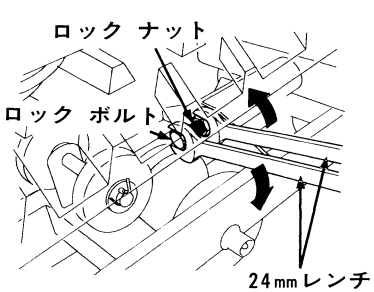
2.クローラに著しい亀裂、損傷、摩耗がないか点検してください。

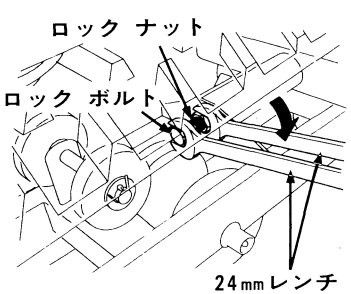


3.クローラに著しい亀裂、損傷、摩耗があるときは、お買いあげ販売店にお申しつけください。

調整のしかた

1.24mmレンチでロック ナットをゆるめてください。
2.クローラのたるみ量が15～20mmになるようにロック ボルトを回わし調整します。
3.調整後、ロック ボルトを固定し、ロック ナットを確実に締付けてください。





走行クラッチ ベルトの調整

⚠警告

ベルト カバーは必ず取付けてください。ベルト カバーが外れている状態で作業をすると衣類などが巻き込まれ事故を起こすおそれがあります。

走行クラッチ ベルトの調整が完全でないと、クラッチがすべり走行できません。また、ベルトの損傷、早期摩耗につながります。

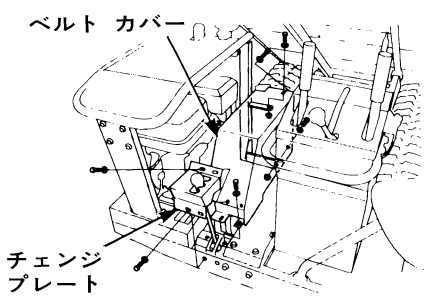
調整時期

初回：20時間運転時、以後：100時間運転毎、または1年に1回

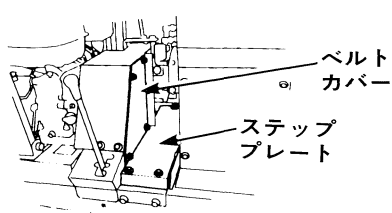
調整のしかた

1. 点火プラグ キャップを外してください。チェンジ プレート(BJタイプ)、ステップ プレート(UJタイプ)を外してベルトカバーを外します。

(BJタイプ)



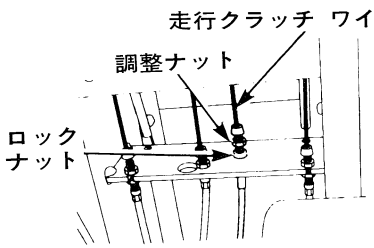
(UJタイプ)

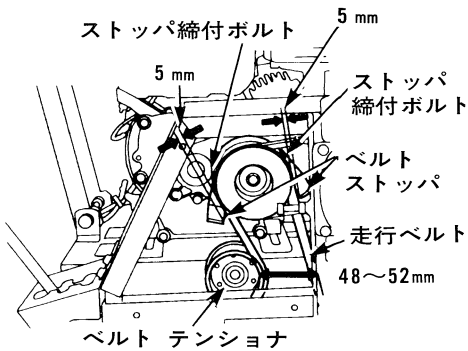


- 走行クラッチ ベルトが摩耗、損傷している場合は、また下記のベルトの間隔が規定寸法にならないときは、ベルトを交換してください。ベルトの交換はお買いあげ販売店へお申しつけください。

2.走行クラッチ レバーを〝**走行クラッチ入**〟の位置にします。走行クラッチ ケーブルのロック ナットをゆるめ、調整ナットを回してベルト テンショナ部のベルト間隔を規定寸法に調整します。

規定寸法：48～52mm





3.調整後、調整ナットを固定してロック ナットを確実に締付けてください。

4.走行ベルトとベルト ストッパのすき間が規定寸法になっているか確認してください。規定寸法以外の場合は調整してください。

すき間規定寸法： 5 mm

5.調整はストッパ締付けボルトをゆるめ、ベルト ストッパを動かして調整します。

6.調整後、ベルト ストッパがズレないようにストッパ締付けボルトを確実に締付けてください。

7.ベルト カバー、チェンジ プレート(BJタイプ)、ステップ プレート(UJタイプ)を取付けます。

油圧ユニット ベルトの調整(UJタイプ)

油圧ユニット ベルトの調整が完全でないと、ベルトがすべりダンプ操作ができません。

調整時期

初回：20時間運転時、以後100時間運転毎、または１年に１回

調整のしかた

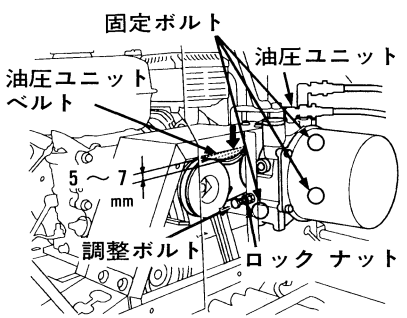
1.ベルト カバーを外します。(47頁参照)

2.油圧ユニットのベルトの摩耗、損傷を点検してください。もしベルトが摩耗、損傷していたらベルトを交換してください。ベルトの交換はお買いあげ販売店へお申しつけください。

3.ベルトの中央部を強く(約５kg)押したときたるみが下記寸法になっているか確認してください。

規定寸法： 5 ～ 7 mm

4.調整は、油圧ユニットを固定しているボルト、調整ボルトのロックナットをゆるめ、調整ボルトで規定寸法になるように調整してください。



5.調整後、調整ボルトを固定してロック ナットを確実に締付けてください。

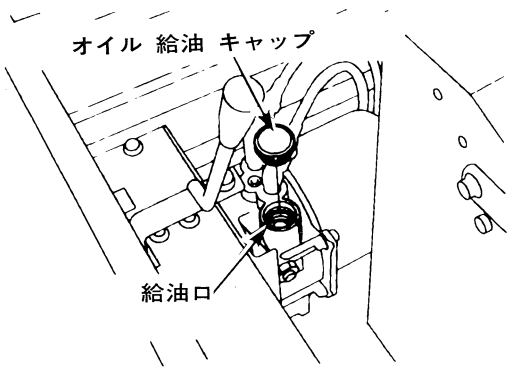
6.ベルト カバーを取付けます。

⚠警告

ベルト カバーは必ず取付けてください。ベルト カバーが外れている状態で作業を行うと回転部に巻き込まれて事故を起こすおそれがあります。

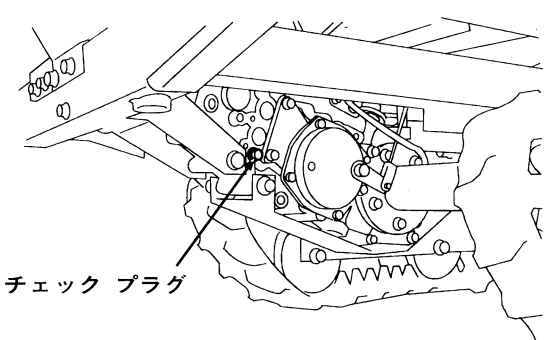
油圧ユニット　オイルの点検(UJタイプ)

点検時期：500時間運転毎、または１年に１回
オイル給油キャップを外し、給油口の口元から油面までが75～85㎜であることを確認してください。オイルが漏れていたり、異常がある場合はお買いあげ販売店にお申しつけください。



変速機オイルの点検

点検時期
初回：20時間運転時、以後：300時間運転毎、または１年に１回
本機を水平にし、チェック プラグをゆるめて、オイルがにじみでてくることを確認してください。もしオイルがにじみでてこない場合はお買いあげ販売店へお申しつけください。



ブレーキ ケーブルの調整、ブレーキ シューの点検

ブレーキ ケーブルの調整が完全でないと、ブレーキの効きが悪くなります。

ブレーキ ケーブルの調整、ブレーキ シューの点検時期

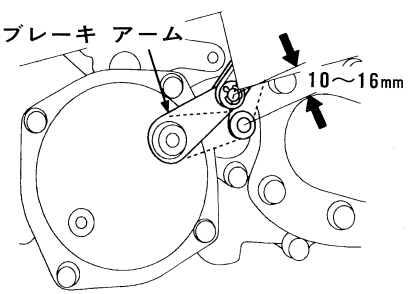
初回：20時間運転時、以後100時間運転毎、または１年に１回

ブレーキ シューの点検

走行クラッチ レバーを〝**走行クラッチ入**〟の位置から〝**駐車ブレーキ**〟の位置にしたときにブレーキ アームの作動範囲が規定寸法であれば正常です。

規定寸法：10～16mm

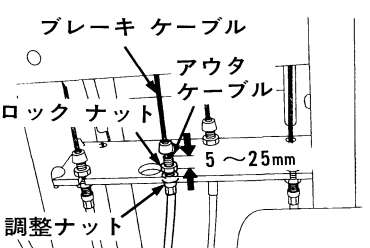
規定寸法以外の場合はブレーキ ケーブルの調整を行って上記の規定寸法に調整します。



ブレーキ ケーブルの調整

1. ロック ナットをゆるめ、調整ナットを回してブレーキ アームの作動範囲が規定寸法(10～16mm)になるように調整します。
2. 右図のアウタ ケーブルの調整寸法が５～25㎜の範囲にあるか確認します。

規定寸法： ５～25mm



3. 調整後、ロック ナットを確実に締付けてください。
   - ●調整不可能または調整寸法が５～25㎜の範囲にない場合は、ブレーキ シューの摩耗、ブレーキ ケーブル劣化(伸び)の可能性があります。お買いあげ販売店にお申しつけください。

サイド クラッチ ケーブルの調整

サイド クラッチ ケーブルの調整が完全でないとサイド クラッチの切れが悪くなります。

調整時期

初回：20時間運転時　以後：100時間運転毎、または１年に１回

調整のしかた

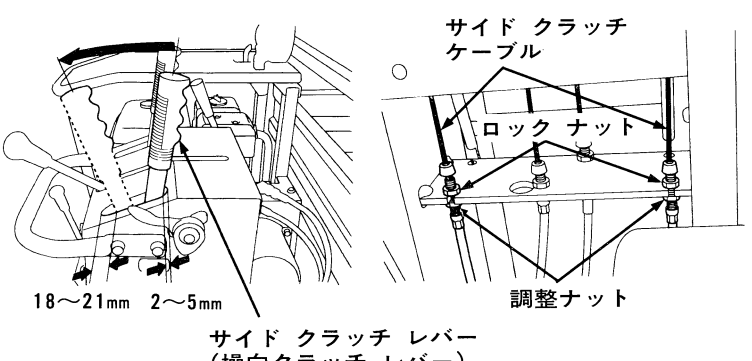
1. 本機を前後にゆすりながら、レバーが手前にいっぱいに引けるところを探してください。
2. サイド クラッチ レバーを手前に引いた状態でレバーとレバー穴とのすき間が18～21mmになっているか確認してください。

規定寸法：18～21mm

3. 調整はレバーを手前に引いた状態でロック ナットをゆるめ調整ナットで規定の寸法(18～21mm)に調整してください。
   また、サイド クラッチ レバーを離し、再度レバーを軽く手前に引き、重くなった所(ケーブルなどの遊びをとった状態)のレバー前面とレバー穴とのすき間規定寸法２～５㎜あることを確認してください。

すき間規定寸法：２～５mm

   規定寸法にならない場合はお買いあげ販売店にお申しつけください。
4. 調整後、調整ナットを固定してロック ナットを確実に締付けてください。

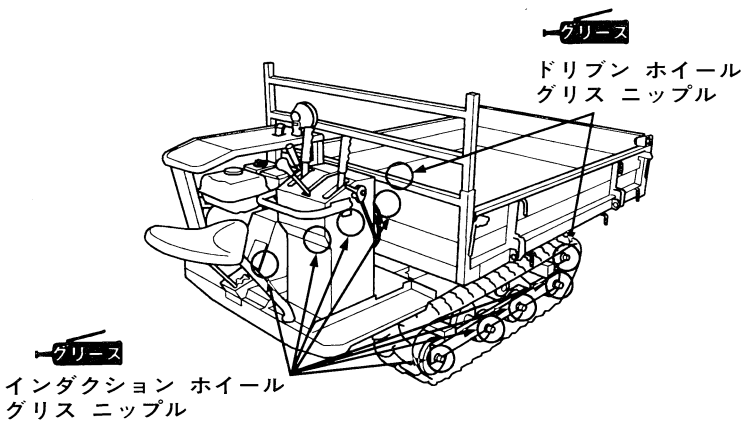


各部の給油について

本機を常に快適に使用するため、下記個所に給油してください。

給油時期

100時間運転毎、または１年に１回

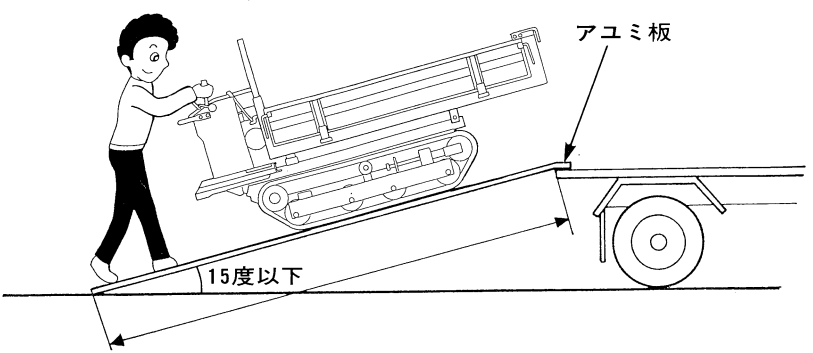


トラック(車)への積み降ろしのしかた

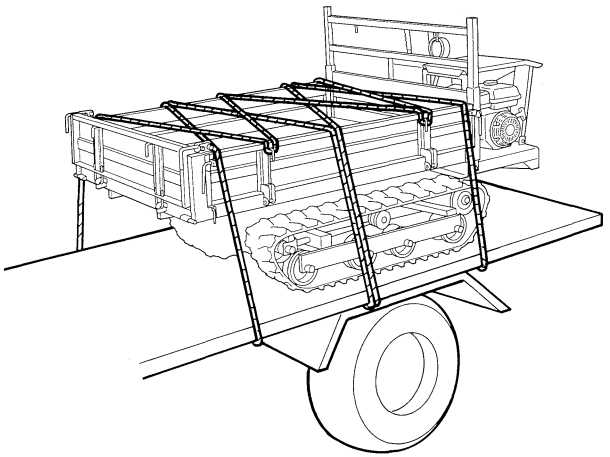
⚠警告

トラックへの積み降ろしをする場合は、必ずアユミ板を使用し、低速で行なってください。転倒や落下によりけがをするおそれがあります。

1. 本機の寸法および重量の積載を満たすトラックを使用してください。
2. トラックへの積み降ろしは平坦な場所でアユミ板を使い転倒や落下に注意して行ってください。
3. アユミ板は耐荷重が0.5t以上で、本機の傾斜角度が15度以下になる長さで、幅30cm以上のもので、滑り止めや外れ防止フックのついた丈夫なアユミ板を使用してください。(目安としてトラックの荷台の高さの4倍以上)



4. アユミ板はトラックに対してまっすぐに、しっかりとかけてください。
5. トラックにアユミ板を平行に並べ、本機のクローラと一直線であることを確認してください。
6. 本機に荷物のない状態で、必ず低速で行なってください。
   トラックに積載したら、走行クラッチ レバーを**〝駐車ブレーキ〟**位置にし、エンジンを止め、燃料コック レバーを**〝止〟**の位置に合わせ、本機をロープなどで2カ所以上固定してください。



7.トラックから本機を降ろすときは、低速で行なってください。後ろ向きで降りるため、後方の安全を十分確認してください。

長期間使用しないときの手入れ

★長期間運転しない場合、または作業を終り長期間格納する場合は次の手入れを行ってください。

⚠警告

平坦な場所でエンジンを停止させ、エンジンが始動しないようにエンジン スイッチを〝OFF〟(停止)位置にして点火プラグ キャップを点火プラグから取外してから行ってください。
誤ってエンジンが始動すると本機が動き出します。

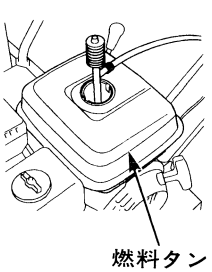
⚠注意

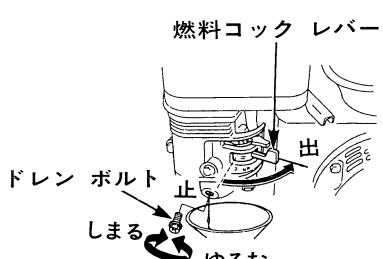
エンジン停止直後はエンジン、マフラーなどが非常に熱くなっていますのでエンジンが冷えてから行ってください。
やけどをするおそれがあります。

1.燃料タンク、キャブレータ内の燃料を抜いてください。
～1.燃料コックレバーを〝出〟の位置にして、ドレン ボルトを外し、燃料を燃料用の安全な容器に受けてください。
～2.完全に燃料が抜けたら、ドレン ボルトを確実に締めて燃料コックレバーを〝止〟の位置にしてください。

⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。
- **換気の良い場所で行ってください。**
- **火気を近づけないでください。**
- **ガソリンはこぼさないようにしてください。万一こぼれた場合は、布きれなどで完全にふき取り火災と環境に注意して処分してください。**





⚠警告

ドレン ボルトの締め方がゆるいと次回に使用するときに、燃料漏れの原因になります。

抜き取った燃料は、燃料をお買い求めになったガソリン スタンドに処理を依頼してください。

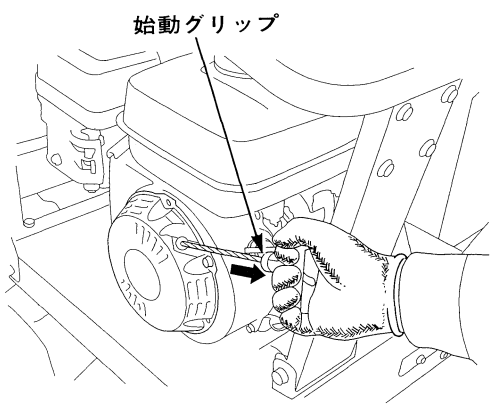
2.エア クリーナを清掃してください。(44頁参照)

3.本機の清掃を行い、各部の締付けを点検して下さい。また各部の給油を実施して下さい。(53頁参照)

取扱いのポイント

本機を洗うときはエア クリーナのカバー締付け部付近、電装部品、およびキャブレータに水がかからないように注意してください。これらの部分に強く水がかかると内部に水が侵入し故障の原因になります。

4.始動グリップを引き、重くなったところで止めてください。



⚠警告

本機を室内に格納するときは火災の原因とならないように、エンジンが冷えたのを確認してからボディ カバーなどをかけて格納してください。

エンジンやマフラが熱いときに燃えやすいものが触れると、火災の原因になります。

故　障　の　と　き　は

まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常があるときは、むやみに分解しないでお買いあげ販売店にお申しつけください。

始動しないときは次の点を確かめましょう。

1.始動方法は取扱説明書通りですか？
2.ガソリンはありますか？
3.エンジン オイルは規定量ありますか？
4.点火プラグ キャップは確実に取り付けられていますか？
5.点火プラグは汚れていませんか、また火花は出ていますか？

・点火プラグの火花確認手順
～1.点火プラグから点火プラグ キャップを取外します。
～2.点火プラグをエンジンから取外し、点火プラグ キャップに取付けます。
～3.点火プラグ穴から離れた場所で、点火プラグのネジ部をエンジン本体に確実にアースさせます。(感電を避けるため点火プラグ キャップ以外には触れないでください。)
～4.エンジン スイッチを"ON"(運転)の位置にして始動グリップを引き、そのとき点火プラグの電極に火花が出るか確認してください。

⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。

- **換気の良い場所で行ってください。**
- **火気を近づけないでください。**
- **燃料がこぼれた場合は、点火プラグの火花確認やエンジンを始動する前にふき取り良く乾かしてから行ってください。**
- **ガソリンに引火するおそれがあるので点火プラグ穴の近くで火花確認をしないでください。また点火プラグ穴に手や顔を近づけないでください。**

・火花が出ないときは、新しい点火プラグと交換するか、お買いあげ販売店にお申しつけください。

主　要　諸　元

名　称(タイプ)	HP560(BJ、UJ)
型　式	NZAC

エンジン

名　称	GX160K1
形　式	強制空冷、4サイクル OHV
排　気　量	163cm³(163cc)
内径×行程	68×45mm
点火時期	上死点前25°
点火方式	トランジスタ マグネト点火
エンジン　オイル容量	0.6ℓ
燃料タンク容量	3.6ℓ
点火プラグ	BP6ES(NGK)、W20EP-U(NIPPONDENSO) BPR6ES(NGK)、W20EPR-U(NIPPONDENSO)

フレーム

タイプ		BJ	UJ
全長		2,495mm(2,160)シートなしの場合	
全幅		1,180mm	
全高		1,095mm	1,139.5mm
乾燥重量		326kg	364.5kg
全装備重量		330kg	370kg
変速段数		前進3段、後進2段	
車速		前進1速-1.6km/h 前進2速-3.6km/h 前進3速5.1km/h 後進1速-1.6km/h 後進2速-3.6km/h	
最大積載量	平地	550kg	
	傾斜地	390kg	
ミッションオイル容量		1.5ℓ	
クローラ(幅)×(長さ)		200mm×2,959mm	

※BJ：手動式ダンプ ホッパ タイプ　UJ：油圧式ダンプ ホッパ タイプ

注意：諸元は予告なく変更することがあります。

HONDA
本田技研工業株式会社
東京都港区南青山２－１－１

30780651
00X30-780-6510

Ⓝ2009603